——展　観

附属図書館の貴重書展

さる5月11日から13日にわたって，附属図書館所蔵貴重書展が開かれた。紛争で中断されていて3年ぶりに開催されたという関係もあって，3日間の入場者は従来の数字を大はばに上まわり，1,053名に達した。出陳資料は，「尼崎本万葉集」「古今集注」「兵範記」などの重要文化財指定図書をはじめ，全部で34点であった。この中でも今回はじめて展示した2点の朝鮮奴隷売買文書はとくに関心を集めたようで，各新聞紙上にも報ぜられた。これは河合弘民博士収集の2,000点ほどの朝鮮古文書中よりえらびだしたもので，朝鮮でもその時代のものは残っているのが少ないといわれている。

——ニュース

マイクロフイッシュフィルム方式の文献複写料金の改正

附属図書館では，本年1月からマイクロフイッシュフィルム方式の文献複写業務を開始していますが，このたび，本省からの通知がありつぎのように改正になりましたからお知らせいたします。文献情報管理および文書管理等にご利用ください。

1．文献複写料金

（イ）フィルム撮影料

1シートにつき　学外者の場合　310円，学内者の場合　270円

（ロ）タイトル撮影料　1件につき　10円

2．申込受付，問合せは本館文献複写室（TEL学内 2230）まで。

附属図書館に「業務機械化委員会」を設置

昨年12月より発足した「業務機械化作業グループ」は，年度末に「全学欧文雑誌綜合目録作成の機械化—実験報告」を提出したあと，本年度から「業務機械化委員会」と改称して再スタートした。

本年度の活動として，昨年度末に実施された「書類，帳票，ファイル類の調査」の整理，雑誌管理システムの設計および，全学欧文雑誌綜合目録作成システムの完成，の3項目が挙げられている。メンバーは，各掛より1～2名の委員で構成され，10名である。

なお，「業務機械化作業グループ」の実験報告の概要は次の通りである。実験は，自然科学欧文編について行なわれ，綜合目録データを書誌データ（雑誌コード，誌名，出版社，出版地，書誌的注記，参照等）と，所蔵データ（雑誌コード，部局コード，所蔵内容）に大別し，書誌データは，書誌マスターとして，また，所蔵データは，所蔵マスターとして，それぞれ別の磁気テープに雑誌コード順に編集記録され，二つのマスターを併合して，最終的に綜合目録を出力するものである。使用計算機はTŌSBAC-3400，プログラム言語はFŌRTRANである。この実験の結果，綜合目録作成の機械化についての具体的問題がは握され，これらの問題を再検討することによって，機械化は可能であると報告している。

学内「図書相互利用書」の使用申合せきまる

附属図書館では，部局間の図書相互利用の促進のため3年前に附属図書館商議会の了解を得て，利用書の様式を統一しその推進をはかってきた。しかし，利用が普及するにつれて，利用書の使用方法，利用冊数，期間の統一が必要になったため，学内図書室担当者と協議して成文化について検討し，さる6月29日の附属図書館商議会にはかり了承を得た。従来に比して，各部局と関係図書室のより一層のご協力をお願いしたい。

申合せ事項はつぎのとおりである。